

令和 2 年度 調査研究評価委員会評価結果

令和 2 年 12 月 16 日 (木) 午後 1 時 30 分から 4 時 Web 開催

○評価委員

氏名	所属	職名等	備考
井之上 浩一	立命館大学 薬学部	教授	
◎ 朝野 和典	大阪大学大学院 医学系研究科	教授	
福島 若葉	大阪市立大学大学院 医学研究科	教授	
三宅 眞実	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科	教授	
毛利 文彦	姫路市環境衛生研究所	前所長	欠席
山崎 裕康	神戸学院大学 薬学部	前教授	

◎委員長

(五十音順)

○評価基準

評点	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
1	欠ける	劣る	乏しい	再考すべき
2	低い	やや劣る	十分でない	改善を要する
3	妥当である	標準的である	標準的である	標準的である
4	高い	優れている	標準以上	優れている
5	非常に高い	非常に優れている	優れた成果	非常に優れている

○評価結果

課題 1				
課題名	疾病予防と健康増進に関する疫学解析研究 RS ウイルス感染症及び新型コロナウイルス感染症に関する疫学研究 (公衆衛生部 疫学解析研究課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	4.8	4.3	3.8	4.3
委員 コメント	○研究の公衆衛生における重要性は極めて高いと評価します。疫学解析を行う部署を置いて今後の新興感染症や流行性疾患の解析に役立てていくことが大安研の使命と考えます。 ○どのように得られた成果を行政に還元するか、特にシステム構築という視点が必要と感じた。チームを結成するなどネットワーク形成等に注力し、成果の還元を図ることが今後の課題と感じる。 ○研究と大安研の役割のバランスを考慮していただき、あくまでも公衆衛生優先での取り組みをお願いしたい。			
担当者 回答	○研究成果は、法人ホームページを通じて発信していますが、緊急性の高いものを行政・現場へ還元する方法については、今後法人として検討したいと考えます。 ○大安研の最優先事項・使命は、健康危機対応や行政へ科学的根拠を提供し、大阪府民の健康安全・安心に寄与することと認識しています。今後共、最優先事項・使命を肝に銘じ、業務を推進します。			

課題 2				
課題名	腸管感染症に関する研究 <i>Listeria monocytogenes</i> の病原性とバイオフィーム形成能に関する研究 (微生物部 細菌課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	3.3	3.2	3.0	3.2
委員 コメント	<p>○本研究は、将来わが国でも中毒発生の可能性があることから、その予防策を考える上で重要なものと考えられる。研究内容も学術的評価は高い。</p> <p>○食の安全は、2025 年の大阪・関西万博でも最重要対策になると考えます。行政施策への貢献・出口戦略として、大阪・関西万博にどのような貢献ができるかという点も心に留めていただきたい。</p> <p>○公衆衛生上の観点から、食品業界など現場への情報還元が望まれます。</p>			
担当者 回答	<p>○頻繁にリステリアが検出された製造施設において、施設内のリステリア除去作業に協力・貢献した実績があります。万博の際には本研究の成果を生かして、製造施設の環境改善等の指導ができればと考えています。</p> <p>○リステリア汚染は食材からではなく、製造施設内の器具等から起こるため、現場への情報還元は重要であり、我々としても携わっていきたいと考えています。</p>			

課題 3				
課題名	器具・容器包装等に関する衛生学的研究 ポジティブリスト制度導入に向けた試験法開発 (衛生化学部 食品化学 2 課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	4.6	4.1	4.3	4.4
委員 コメント	<p>○国との協調が進められている、オールジャパンの取り組みの 1 つと捉えられます。行政へ成果を還元するためには避けられないタスクであり、より一層の取組みを期待したい。</p> <p>○外国製品やリサイクル品についても検査できるようにしていただきたい。</p> <p>○GC-MS-SCAN ライブラリーをオリジナルで開発し、それを各衛生研究所や分析機関などへ配布できれば、大安研の存在意義をアピールできると思われまます。</p>			
担当者 回答	<p>○大阪では輸入品も多く使用されていることから、外国製品についても検討しています。また、リサイクル品は再生材料由来の物質が検出されるため、試験法は難しくなると予想されますが、知見を集積し検討していきたいと考えています。</p> <p>○現在は NIST ライブラリーへ追加していますが、NIAS のデータを含めた器具・容器包装オリジナルのライブラリー開発を試みたいと思います。</p>			

課題 4				
課題名	環境微生物に関する調査研究 淀川水系に生息するレジオネラ属菌と宿主となる自由生活性アメーバに関する研究 (衛生化学部 生活環境課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果	3.6	3.4	3.4	3.5
委員 コメント	<p>○レジオネラ症は発症すると大変重篤ですので、水の安全を担う地方衛生研究所の使命として、今後も研究をすすめていただきたいと思います。</p> <p>○レジオネラ検出法としてアメーバ共培養法は有用と考えられます。水道水源のレジオネラ検出事例から考えると水道水中の調査も必要と思います。</p> <p>○培養困難なレジオネラを効果的に培養する方法の確立を期待します。</p>			
担当者 回答	<p>○水道水中にレジオネラが生息しているとの報告もあるため、今後は水道水を対象とした調査を実施し、水の安全性に関する研究を進めていきたいと考えております。</p> <p>○培養困難なレジオネラについて、検出可能な方法を検討すると共に、分子疫学についても進めていきます。</p>			